

「親子で目指そう富士登山」無事終了！

10年目となる「自然と親しむ子ども山登り教室」（親子で目指そう富士登山）が、みなさ

まのご協力の下、無事に終了しました。

★三頭山(6月12日)

参加者 子ども6名
スタッフ4名+臨時スタッフ4名
親御さん7名

ったため、シルエットを見ただけに終わった。
滝見橋の上に行き、三頭大滝を見物する。思い思いに写真を撮って楽しむ。

「親子で目指そう富士登山」の3回目は、都民の森にある三頭山だ。最初、参加予定人数は27人だったが、どんどん減って、当日は21人になってしまった。それでも大人数に変わりはない。気持ちを引き締めて、子どもたちの安全確保に努めなければならない。今回は、助っ人に、以前、アルプの山行に参加してくれたKさんと奥さんが参加してくれた。若いパワーに感謝です。

都民の森の駐車場で、自己紹介をしてから歩きはじめる。ウッドチップをしいた道は、自然の道とは言えないけれど、足に優しくて心地よい。ヤマシャクヤクは実をつけていた。モミジイチゴはほんの少しだけ実が付いていた。

途中でオオルリを発見。しかし、逆光で遠か



三頭大橋にて

ここからが本格的な登山になる。少し登って滝の落ち口を渡るが、以前来たときは橋がなかったように思うが、しっかりした橋が架かっていた。記憶は当てにならないことを実感する。



沢治いの道を登る

三頭沢に沿った山道は、涼しくて気持ちよい。

30℃近くなるという都会とは全く違う別天地。緑に包まれ登っていく。途中の野鳥観察小屋分岐では、今回もIさんが八街産のスイカを振る舞ってくださった。気配りにいつもながら感謝です。



さらに登り、左側が切れた道を注意するよう促しつつ登っていく。次第に空が近づいてくる。広いムシカリ峠に到着。前は、ここから避難小屋に行って昼食としたが、今回は少し早いので、お昼は山頂で摂ることにする。峠の近くでコルリが大きな声でさえずっていた。Hさんや子どもたちと探しに行くが、残念ながら姿を見つけることはできなかった。



峠からは階段の上りとなる。ひょうきんなK君は階段の中央に座っている。普通のことをしているだけでは物足りないようだ。

登山道の脇にはヤマツツジがたくさん咲いている。赤い花弁を登山道に落として、周囲を赤く染めている木もあった。

一登りで西峰に到着。ヤマツツジの向こうに富士山が見えていた。昼食後は、Kさん夫妻か

らベリーダンスの基礎講習を受けている人もいた。小学生の男の子たちは、山頂標識の上に向かって楽しんでいる。M君のバランス感覚はすばらしい。



集合写真を撮った後は、中央峰、東峰と縦走し、東峰の展望台から大岳山などの展望を楽しむ。ここからさらに下ってコマドリの路への分岐を過ぎ、見晴らし小屋に到着する。ここで、登山道の方角を少し迷ったが、探鳥の路への分岐を過ぎて、ブナの路を下っていく。



急なところもあったが、無事に通過し、鞆口峠に到着する。ここから木材工芸センターでトイレを借り、石垣でクライミングを少しだけ楽しむ。ほぼ予定通りの時間に都民の森駐車場に到着。バスも増発が出て、みんなゆっくり座って帰ることができた。バスの中では、心地よい疲れに、子どもたちもいつしかまどろみの世界に入っていた。

記：網干

コースタイム

都民の森(10:30)…三頭大滝(10:55)…野鳥
観察小屋分岐(11:15-11:30)…ムシカリ峠

(12:05-12:20)…三頭山(12:35-13:20)…
鞆口峠(14:30-14:40)…都民の森(15:05)

★硫黄岳(7月23日～24日)

参加者 子ども7名
スタッフ5名+臨時スタッフ1名
親御さん6名
別働隊 会員(障害者1名、健常者1名)

こまで標高差で約450m。林道とはいえ、かなり上がってきた。ここから赤岳鉱泉までは標高差約300m。ただ沢沿いの山道となる。周囲の苔が美しい。

☆7月23日

富士山に向けてステップアップする「親子で目指そう富士登山」の4回目は、いよいよ宿泊を伴う硫黄岳だ。前日まで天気が悪かったが、週末の2日間はますますの天気が予報されている。しかし、中央線の車窓から見える山々は、すべて雲に隠れて見えない。今日のところは曇り空の方が、かえて暑くなくて良いかと思う。

美濃戸口から林道を歩く。最近では近道を知らない人が増えたようで、近くにいたパーティーに教えてあげる。美濃戸山荘で昼食タイム。6月から7月上旬にここに来ると、いつも決まった梢でオオルリがさえずっていたので、みんなに見せてあげようと思い、大きな双眼鏡を持ってきたが、今回は時期が遅かったせいでいなかった。

さらに林道を進む。シロバナノヘビイチゴが小さな実を付けている。食べてみると甘い、何かとろっとしている、全部は食べなかった。何人かが食べたが、おなかをこわした人はいなかった。

林道終点の堰堤広場に到着。美濃戸口からこ



北沢に沿って登る

栈道や沢に架かる橋を何度か渡ると、雲間から大同心の頭が見えた。お坊さんが手を合わせて、拝んでいるように見える。子どもたちは沢で遊んでいる。



赤岳鉱泉の朝食風景

沢に挟まれた尾根上のところを登り、さらに樹林帯を登っていくと、赤岳鉱泉に到着する。周囲の山は雲の中で見えない。受付を済ませて小屋に入る。今回が初めての山小屋利用となるので、大人同士の交流もできた。子どもたちはUNOをして遊んでいる。Yさんが子どもたちにつきあって遊んでくれている。いつも子どもたちの相手をしてくれるYさんにはただただ

感謝だ。晩ご飯はステーキだった。

☆7月24日

夜半に外に出なかったなので、星空が見られたかどうか分からなかった。朝、外に出てみると青空が広がっている。赤岳や阿弥陀岳も見える。今日は絶好の登山日和になりそうだ。

小屋で朝食を摂り、小屋前で集合写真を撮る。食事もしっかり摂り、みんな元気そうだ。山は早立ちが大切。計画より25分早く出発する。



赤岳鉱泉前にて

班分けをしても子どもたちは前に来る。あまり制限せず、前に来ても良いこととして歩いて行く。ジョウゴ沢を渡るといよいよ登りが始まる。鉄の階段を過ぎると、さらに急坂となる。シラビソを中心とした針葉樹林帯をジグザグに登っていく。次第に樹高が低くなってくるとダケカンバが現れる。タカネグンナイフウ口などが咲いている。



硫黄岳目指して登る子どもたち

草付きをジグザグに登るところで、子どもたちに先に登ってもらい、写真を撮るが、身長の高い子どもたちは顔だけが草の上から出てい

た。M君が少し遅れている様子。だが、最後尾を守ってくれるYさんが、一緒に歩いてくれるので安心だ。



右上の硫黄岳山頂を目指す

森林限界を超え、展望が開ける。赤岳や阿弥陀岳、横岳がよく見える。これから登る硫黄岳も見えていた。尾根に上がると北アルプスの槍穂高連峰も雲の上に見えている。乗鞍岳や御岳、中央アルプスも見える。



赤岩の頭付近から見た硫黄岳

みんなで赤岩の頭の上に行って展望を楽しむ。朝は見晴らしが良いので、計画より少し早く出発して正解だった。阿弥陀岳のすぐ右手には、北岳、塩見岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳が見えていた。Sさんは、北岳に登ってみたいという。子どもから具体的に「〇〇の山に登りたい」と言われたのは初めてだ。やはり6年間、「子ども山登り教室」に参加し続けた成果だろう。

赤岩の頭を後に、硫黄岳への最後の登りにかかる。岩場も、子どもたちは難なく通過。山頂に着くと、すぐに爆裂火口を見に行く。山の片側が吹き飛ばすほどの大噴火があったことが分かる。河口近くまで行くO君にはらはら。



赤岩の頭付近から見た赤岳、中岳、阿弥陀岳

足下にはヒメコゴメグサやミヤマダイコンソウがたくさん咲いている。山頂で集合写真を撮ってから、硫黄岳山荘のお花畑まで行ってみる。すでに赤岳や横岳は山頂を雲に隠していた。ケルンに沿って下ると、コマクサの群落がある。高山植物のコマクサに会えてラッキーだった。



赤岩の頭から見た槍穂高連峰

お花畑は、一番良い時期を過ぎ、咲いている花の種類は少なかった。硫黄岳山荘のスタッフの方がビール缶などの空き缶をつぶすところに出くわし、子どもたちは空き缶つぶしを楽しませてもらう。A君は「ストレス解消になった～」という。お母さんは「あなたストレスがあったの？」という。楽しい親子の会話だった。

硫黄岳山頂に戻り、登ってきた道を引き返す。すっかり展望はなくなっていた。子どもたちは順調に下る。先に降りすぎないようにブレーキをかけることが私の仕事。後ろの様子も確認しながら降りるが、今回は大人数のため、トランシーバーを持ってきた。これが大活躍。最後尾のYさんと無線で連絡を取り合い、先頭は早めに下って行く。



赤岩の頭の分岐にて

赤岳鉱泉で昼食タイム。少し遅れてM君も到着。小屋のカレーライスを食べていたOさん親子に、「おいしそう」と視線が集中。



山頂直下の岩場を登る

ハヶ岳山荘で入浴するため、大勢で集中すると順番待ちになるので、先頭グループは先に下ることにする。硫黄岳の下りから頭が痛いと言っていたA君は、まだ痛いという。高山病の影響が出たのだろう。



硫黄岳山頂にて

子どもたちは順調に下る。大人がついて行かない状況になりつつある。私の役割は、子どもたちをセーブさせること。何度も「待っている」と声をかける。



硫黄岳山頂の爆裂火口

美濃戸山荘で、トマトを食べる。みずみずしくておいしい。キュウリを食べている人もいた。



高山植物の女王コマクサ

最後の林道もぐんぐん下る。近道を使うが、あまり短縮にならない近道も使って下る。頭の痛かったA君は、結局先頭で美濃戸口に到着。お疲れ様でした。着いた人から入浴する。ラストを歩いてきたIさん親子とUさん親子、Yさ

★富士山(8月27日～28日)

参加者 子ども8名
 スタッフ4名+臨時スタッフ3名
 親御さん8名

☆8月27日

んも到着し、お風呂に入る。

汗を流してさっぱりし、ハケ岳山荘でくつろぎ、茅野駅に向かうバスに乗り込んだ。次は、最後となる富士山だ。子どもたちみんなが元気に山頂に立てることを願いつつまどろみの世界に入っていった。

記：網干



硫黄岳山荘で空き缶つぶしを手伝う

コースタイム

7/23 美濃戸口(11:25) … 美濃戸(12:30-13:00) … 赤岳鉱泉(15:20)

7/24 赤岳鉱泉(6:35) … 赤岩の頭(8:05-8:30) … 硫黄岳(8:50-9:10) … 硫黄岳山荘(9:35-10:00) … 硫黄岳(10:15-10:30) … 赤岳鉱泉(12:00-12:30) … 美濃戸(13:55-14:05) … 美濃戸口(14:50)

10年間継続してきた「自然と親しむ子ども山登り教室」の締めくくりとして、いよいよ最後の富士山を目指す。今回参加した子どもたちにとって、最後の目標となる登山だ。今年登った4つの山は、富士山を目標においてがんばってきた。子どもたちもいろんな思いを胸に抱いて今日を迎えたことだろう。スタッフが不足していたので、今回は水戸薬山岳会のKSさんとMTさんに応援していただいた。

晴れ渡った青空の下で、雄大な展望を楽しみながら、山頂に立って達成感を持ってもらいたいと思ったが、この週末は残念ながらあまり良

くない天気予報だ。五合目でバスを降りると、雨が降っている。雨具を付けて出発準備をする
が、雨脚は強くなっている。スマートフォンで
雨の様子を確認すると、周囲には土砂降りの箇
所もあり、富士山の南部に移動してきそうだ。
13時30分の出発予定を遅らせ、14時を回
った。まだ雨脚は強いが、子どもたちは待ちく
たびれてきた様子。雷の鳴る音がしないことも
あり、雨脚は強いが出発することにする。



雨の中、五合目レストハウスを出発

雨の中、みんな元気に歩きはじめる。今回は、
新七合目の御来光山荘に泊まる計画とした。そ
こは標高2800m。それ以上高いところに泊
まると、山小屋に泊まっている段階で高山病に
なってそれ以上先に登れない子どもが出る可
能性があり、もっと低いところだと2日目の登
りがきつく早い段階で脱落してしまう子ども
が出る可能性があると思い、御来光山荘を宿泊
場所に設定した。



六合目の小屋を過ぎて上を目指す

降りしきる雨の中でもみんな元気に登って
いる。六合目の宝永山荘で少し休憩する。そし
てさらに上へと登っていく。新七合目の御来光

山荘には15時30分着。小屋の内部が濡れな
いように、入口にある食堂にはブルーシートが
敷いてある。ザックはビニールの袋に入れて泊
まるところに持って行く。大人も子どもも一緒
になって、食堂で交流し、その後部屋の前で膝
を抱えて小さくなって交流する。



新七合目の御来光山荘にて

☆8月28日

深夜、子どもたちの話し声が聞こえる。静か
にして、明日に備えて寝るようにいうが、また
すぐに話し始める。1時になっても2時になっ
ても声がる。体調に影響を与えないか心配だ
が、どうしようもない。

3時に起床。3時30分に出発する予定だが、
みんな小屋で朝食を食べている。出発は4時と
なる。

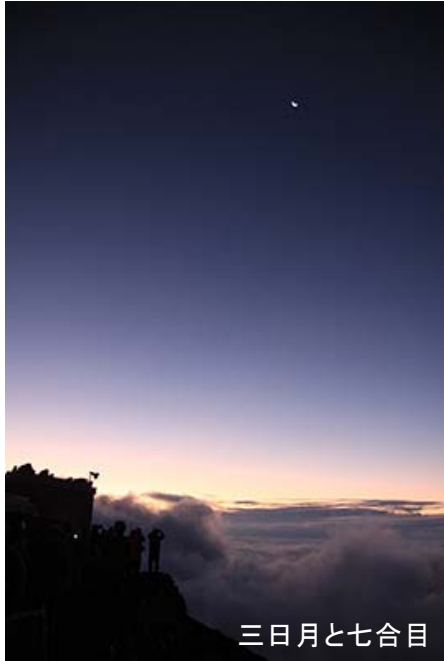


ヘッドランプを付けて暗い道を登る

外に出ると、霧雨になっているが、霧の切れ
目から月やオリオン座が見えるときもある。今
日は、昨日のような土砂降りになることはなさ
そうだ。

全員、ヘッドランプを付けて、真っ暗な登山

道を登っていく。次第に霧が晴れて、東の空が色づき始める。先ほどまでの霧雨が嘘のように晴れてきた。元祖七合目に着くと、小屋の前で日の出を待っている人たちが大勢いた。私たちの場所はなさそうなので、そのまま上へと登っていく。



三日月と七合目

元祖七合目から標高差にして100mほど登った3100m付近で上下にある雲の間から太陽が顔を出し、そうなので待っていた。しかし、なかなか姿を現さない。そのまま上の雲の中に太陽が入ってしまったのかもしれないと思い、先に登っていくことにする。少し登ったところで、雲の上から日の出が見られた。天気予報が悪く期待していなかっただけに、とてもうれしい。雲海もどこまでも広がっている。いつものことながら、自然の美しさに心動かされる。



雲海の上に出た御来光

今回は、1班に小学5年生の子どもたち、2班に6年生、3班に中学生とした。元祖七合目

の頃から、M君のお母さんが少し調子が悪そうだった。しかし、3班に入って後ろからゆっくり登ることで、しっかりと付いてきている。



九合目を超えてさらに登る

3300m付近の八合目に到着。少し気持ちが良くない子も出てきたが、まだまだ行けそう。九合目になると先頭と最後尾の差が大きくなってきた。中学生のC君とSさんが気分が良くないようだ。それでもまだゆっくり登れば大丈夫そう。1班、2班の子どもたちは元気に登っている。

九合五勺、山頂まで標高差で200m少々。苦しみながらも、ここまで全員登ってきている。時々霧に包まれるが、山頂には青空が広がっている。すばらしい天気恵まれた。



もう少しで九合五勺

この頃から元気な中学生のA君に前に来て歩いて良いと伝える。先頭になって元気に登っていく。1班のAT君が少し遅れてきたようだが、山頂まであと少し。みんながんばって登っている。

先頭は8時30分に山頂の浅間大社奥宮に到着。後続を待つ。2班が到着するがその後ろ

が遅れているようだ。空身で登った道を降りて応援に行く。AT君が山頂まで標高差30mほどのところで、横になりかなり体調が悪いようだ。これ以上登ることは本人も無理というので、下山することにする。2班のKMさんにAT君親子と一緒に下っていただくことにする。最初元気だったこともあり、登るペースが速すぎたことが体調を崩した原因かもしれないと反省する。ふと周囲を見ると、なんと小学生のM君とK君もいる。山頂からここまで下ってきたのは私一人と思っていたら、元気な子どもたちだ。



富士山山頂にて

最後尾の3班も9時過ぎに山頂に到着する。ここで、希望を募り、剣ヶ峰に行くメンバーとここで待つメンバーに分かれる。山頂は完全に霧に包まれ霧雨が降っている。手がかじかむくらい寒い。それでもみんな雨に負けずに歩いて行く。9時40分に剣ヶ峰到着。5組の親子と6人のスタッフが登頂した。少し青空も見えたが一瞬にして霧に包まれる。とにかく寒いので、写真だけ撮って来た道を引き返す。



剣ヶ峰にて

浅間大社奥宮で待っている人たちと合流す

る。なかなか全員がそろわないので、体調の優れない子どもと一緒に水戸葵山岳会のKSさんに先に下っていただく。とにかく人数が多く、体調もばらばらなので、全員がそろって行動するのは難しい。それでも、兵庫県から来たYさんが最後を締めてくれているので、本当に心強い。今回、持参した5台のトランシーバーも駆使して、連絡を取り合いながら行動した。

震えるほど寒かった気温も標高を下げるに従って、次第に暖かく感じるようになる。朝は8℃だった九合五勺の気温も12℃に上がっていた。



駿河湾と伊豆半島

子どもたちは、登りが強かったが下りになると足を痛めて遅れる子が出てきた。それでも、6合目に全員がそろおう。先に降りたAT君とお母さん、それに付き添ってくれたKMさんも待っていてくれた。予定より1時間後のバスに乗ることにしたが、次の予定があるAT君親子は、予定していたバスに乗って帰った。

登りも下りも順調に歩き通した子は、小5のMS君と小6のAY君、それに同じく小6のMさんだったようだ。体調を崩しながらもがんばり通した中3のSさん、中2のC君、中1のAK君、小6のKT君。山頂直下で下山せざるを得なかったAT君は悔しい思いを胸に抱いて帰ったことだろう。でも、みんな本当にがんばった。日本一高い富士山は、山は楽しいだけでなく、厳しさに立ち向かう強い気持ちと忍耐が必要であることを教えてくれたのではないだろうか？

みんなで富士山に声をかけてこの登山を締めくくることにしよう。「富士山、大切なことを教えてくれて、ありがとう！」

記：網干

コースタイム

8/27 表富士宮口五合目(14:15)…御来光山

荘(15:50)

8/28 御来光山 荘(4:00)…元祖七合目(4:45-4:55)…八合目(5:40-6:00)…九合目(6:45-7:00)…山頂浅間大社奥宮(8:30-9:20)…剣ヶ峰(9:40-9:50)…浅間大社奥宮(10:00-10:10)…御来光山 荘(13:15)…五合目(14:40)

「親子で目指そう富士登山」感想文（第1回丸山）提出順

楽しかった。(おしゃべり) きつかった。(上り) にもつが重い。
みんなとひさしぶりに会ったのに、つい最近会ったみたいだった。

A.T君

「親子で目指そう富士登山」感想文（第2回生藤山）提出順

ぼくがいった山は生藤山だったと思います。ひさしぶりの山だったので、最初はバテバテだったけど、時間がたつといつものちょうしがでて、いつものように走ってやすんで走ってやすんでのくりかえしてしていました。そのときはころびたくないと思いました。

とちゅうへビイチゴをたべました。まだそだちきっていないものはおいしくなかったけど、つぶつぶがついたへビイチゴ(へビイチゴという名はよそう)をたべると味と風味があっておいしかった。そのあとの休けいで川に遊びにいった時、顔からでていた汗を川の水であらいながしてタオルをぬらしてくびにかけるとつめたくてつかれがとれて、のぼっている時も、のどがひえていてきもちよかったです。

とちゅう毒へびもいてそこからまたのぼって前をみると大きな岩があって、お父さんに「あの岩おちてきそうでこわいね」と言いました。そのあとは、とくになにもなかったけど、しょくじの時はえほうまきを食べました。でもえほうまきを食べているさいちゅう、えほうまきの入れものにしょう油をたらすと、入れものに中があいていてズボンにかかってしまいました。そのあと下山して、1ぱんと2はんをいれかえて2はんがせんとうになりました。でも1ぱんのはずのぼくが2はんのせんとうになったり「1ぱんは、おそいなあ」と言いながら1ぱんをねっころがってまったり2はんのせんとうになったりのくりかえしをしていました。そしてぶじに友達とはなしたに「大岩だ!」とって自分が大岩になりきったりして、下山しました。心にのこった山登りになりました。

K.K君

第一回目よりも楽でした。でも、とっても急な岩場では、下の方に石が落ちてしまうような登り方をしてしまったので、下に石を落とさないよう登りたいです。

障害のある人と共に登ったことで、とっても、とってもきよりがちちまったように感じます。一緒に山に登るのに、障害も何も関係なくできるものだなと感じました。

途中にあったわき水が飲もうと思ってくんでいたのに、飲めないと知ってがっかりしました。

A.O君

「親子で目指そう富士登山」感想文（第3回三頭山）提出順

三頭山は、つかれました。

ペースが速すぎて、でも楽しかったです。

これからは、ペースをおそくしたいと思います。

おそくして！！

みんなもいつも通り元気でした。

山頂では、8月に登る富士山も見え、今度はあそこに登るのかと思いました。

これからも、富士山にむけがんばります！

M.K君

三頭山で一番いやだったこと、一番よかったこと（うれしかった事）、一番楽しかったこと、最高だったことなどいろいろあります。

一番最初の電車の時間は、よったりしてとてもいやでした。でも電車の時間はいやなことばかりではありませんでした。電車の時間の中で楽しかったことは、友達とふざけ合っていた時間です。前まできていなかった友達と話せてよかったです。

電車から下りても、ずっとよいが続いて山を登ろうとしている時になりました。その前のバスも「よってしまう」+「バスの時間が長い（約60分）」でとてもいやでした。バスから降りておくの店があるところに行く、まるでよいがふきとぶようないい匂いがしました。

準備運動をしてリュックをせおっていくと木の一部分がたくさん地面にしかれていてとても歩きやすい道がありました。そこをぬけるときれいなたきがあってすごかったです。そしてゆるやかな坂や岩や木の根があって、ゴツゴツした坂などを上がっていき、頂上につくと富士山が見えてうれしかったです。頂上で食べたひるめしは、とてもおいしくすぐにおなかいっぱいになりました。帰りも同じようにかいだんや坂を下って行って、さいごはアイス（チョコとバニラのミックス）を食べました。チョコはあまり好きじゃなかったけど、おいしかったです。

K.K君

朝の集合時間は前回より遅かったのでよかったです。バスではねることができたのでよかったです。さいしょからきつくてのぼれるのかなとふあんになったけど、ちょう上までのぼることができたのでよかったです。

途中ではいろいろなしぜんにであうことができたのでよかったです。ゴールしたときはとてもうれしかったです。

C.N君

最初、登っている時に足が痛かったけど、富士山が見れた時には、すごくよかったです。すこし、楽に感じました。

最終的には、富士山に登るから、高さとかになれていきたいです。

A.O君

「親子で目指そう富士登山」感想文（第4回硫黄岳）提出順

山小屋で遊んだり、ねたりするのが楽しかった。ごはんもおいしかったし特にみそしるがおいしかった。高山病に植物公園の帰りに走ってなってしまったから、富士山では走らず、高山病にならないよう、さん素を十分に取っておきたい（休けいの間に5回はしんこきゅうをする）。岩とかの所で、こけがたくさんあって、そこですべることが多かったから、そういうのも気をつけたい。Yさんに水を持ってもらっていたから（1日目のみ）めいわくにならないよう、自分でもちゃんと持てるようにしたい。来月は富士登山だから、前の日にちゃんとじゅんぴをととのえておいて、ちゃんと次の日に、富士山に好調で登れて、富士山は、八ヶ岳（硫黄岳）よりもひょう高が高いから、高山病にこんどこそならないようにしたい。

A.T君

硫黄岳では思ったことがたくさんあるけど、大きくわけて3つあります。1、楽しかったこと（うれしかったこと） 2、くやしかったこと 3、おどろいたことです。

楽しかったことは、登山している時の川をわたる橋と川で冷たい水をさわっていたことと山荘についた時です。

くやしかった（いやだったこと）ことは、電車の中で、父さんにつめが長いといわれたことです。つぎの山登りはちゃんとつめを切ってからいきたいです。

おどろいたことは「こけの海」。岩についていて毛のようなこけです。でも、この三つがきょうつうしているのがあります。それは、山の頂上についた時です。うれしかったことは、山に登りきった達成感です。いやだったことは地面が小石だらけで歩きにくかったことです。おどろいたことは雲海だったことと火口あとがあったこととふんかした山や登った山が見えたことです。山にあったきれいな石をもちかえれてよかったです。

K.K君

今回の硫黄岳は全体的にはあまりきついとは感じませんでした。疲れた、休みたいなどの弱音は言わず、2班であるのに先頭の方で順調に進んでいけました。赤岳鉱泉の風呂は熱かったです、気持ちよかったです。夕食にはステーキが出てきて、こんな高い所にある山小屋でもこんなに豪華な食事が出るのはすごいなと思いました。

次の日の硫黄岳の山頂へ向かう山道も、昨日よりは少しきつかったです、それほどきついとは思いませんでした。途中の展望もです。赤岩ノ頭から、やり穂高などの山々が360度見わたせてとてもいい眺めでした。山頂では火口を見ました。さらに硫黄岳山荘の近くのコマクサなどの花がたくさんあってきれいでした。また、空きカンつぶしを体験しました。とても気分がスッキリしました。

下山途中の美濃戸山荘で食べたトマトがおいしかったです。あまり、まるまる1個かぶりつくことはないので、いい経験ができました。

次回の富士山は1度は登ってみたいとずっと思っていたので行くのがとても楽しみです。

S.Iさん

山行報告

★大菩薩嶺(6月26日)

参加者 会員(障害者4名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

つゆの真っ最中なので多少の雨でも仕方ないと思っていたが、当日は素晴らしい天気恵まれた。タクシーを予約し忘れていたことに気づき、初参加のSさんからタクシー会社の電話番号を教えていただいて、ジャンボタクシーと普通のタクシーを予約する。電車の中で出会った男性が、甲斐大和から上日川峠までのバスが出ていますと教えてくれる。塩山集合の方もいるので、行きでは使えないが、帰りはそのバスを使うことにする。



タクシーだと福ちゃん荘まで送ってもらえるので、とても助かる。トイレなどを済ませ、自己紹介の後、唐松尾根を登り始める。最初は広い道だ。

少し登ったところで、富士山が見える。まだほんの少し残雪があるようだ。富士山がしっかり見えたのはここだけ。これ以降は頭を雲に隠した富士山しか見えなかった。何でも美人が多いから雲に隠れたという意見がある。「そうですね」と言えば良いのに、「そうですか？」としか言えないのが私ですね。



途中平坦なところで休憩し、さらに登っていく。次第に傾斜も増してくる。しかし、木々の隙間から稜線のクマザサの草原が見えるようになってくる。樹木が少なくなり、次第に草原状になる。展望も素晴らしい。ただ、南アルプスは稜線付近がうっすらと雲がかかりよく見えていない。富士山も山頂を雲に隠していた。



雷岩に到着する。昼食は展望の良いここですることとし、ザックを置いて、山頂を往復する。

山頂は、展望がない。でもそれは自然が作り出したもの。集合写真だけ撮って雷岩に戻る。雷岩はとても展望が良い。ただ、今日は雲が多く、富士山や南アルプスも雲に隠れてよく見えない。それでも近くの小金沢連嶺などが見えている。

雷岩からは、展望の良い稜線を下る。少し下るとお目当てのニョホウチドリが咲いていた。赤紫の美しい花だ。



大菩薩嶺にて

稜線は草原状の展望の良い尾根。こういうところには、ピンズイがたくさんいる。今回はピンズイデーと言って良いくらい次々にピンズイが現れ、さえずってくれる。ピンズイのさえずりは、途中に入る「ツイー ツイー ツイー」が特徴。さえずり飛翔も見せてくれる。



ピンズイ

途中の岩場を慎重に降りる。登山者も増えてきて、かなりの混雑だった。気持ちよい草原の尾根を歩き、賽の河原に立つ避難小屋を過ぎる。レンゲツツジが少しだが咲いている。その小さなピークを越えると大菩薩峠に発つ介山荘が見えてくる。

大菩薩峠では、ピンズイがすぐ近くでさえずっている。大勢いる中でも、逃げることもなく大胆に梢でさえずっている。

峠からは、林道を下る。キビタキやコマドリ、オオルリの声も聞こえた。福ちゃん荘で小休止して、そのまま林道を歩く。M君と手をつないでいると、道路に野鳥が出てきた。写真で見るとアカハラだった。



ニョホウチドリ

上日川峠に着くとバスが2台待っていた。トイレなどを済ませて、運転手さんから乗車許可の出たバスに乗り込む。1時間ほどかかるバスの中では、M君と共に心地よい眠りについていた。記：網干



稜線の岩場を下る

《参加者の感想》

正に、梅雨の晴れ間！

良いお天気に恵まれました。さすがに、百名山。色とりどりのウェアの登山客で賑わっていました。爽やかな風、ピンズイが、すぐ目の前に来てくれました。澄んだ囀り、可愛い姿に癒やされました♪



唐松尾根から見た富士山

写真アップ、されますように…

眺望の良さにも満足です。富士山も、雄大な姿を見せてくれました。長男は 2000m 級の登山道を楽しめたようです。とても楽しんでいた記念で、熊よけ鈴を買いました。メダル感覚かもしれません。嬉しそうに帰宅後も鳴らしています。記：F.Iさん

★足和田山(7月10日)

参加者 会員(障害者2名、健常者2名)
会員外(健常者1名)

今日は富士山の北側にある足和田山に紅葉台入口から登る。登ると言っても、標高差はわずか400m。登山道もほとんど広く平坦な所を通る。しかし、今回は最後に道を間違えて、勝山に下る予定が大田和に下ってしまった。この下りは、急斜面にジグザグに切られた道で、今回のコースでは一番厳しかった。



モンキチョウ

高速バスで河口湖駅に着く。バスの時間が事前に調べたものより少し遅く、9:58発だった。紅葉台入口で下車。自己紹介とラジオ体操をして歩きはじめる。今回は、4年ぶりにAさんも参加した。八千代市の公民館で理事会を開催するときにお世話になっている方だ。少人数での山行を楽しんでもらえたらと思う。

馬の牧場を過ぎ、少し登りにかかる。登山道と言うより林道に近い感じの広い道だ。キビタキやオオルリが近くでさえずっているが見つ

コースタイム

福ちゃん荘(10:20)…雷岩(11:30-11:35)…
大菩薩嶺(11:45-11:50)…雷岩(12:00-
12:30)…大菩薩峠(13:20-13:35)…福ちゃん荘(14:15-14:20)…上日川峠(14:35)

からなかった。さらに行くとアカゲラがいた。動きが素早く姿を探すのに精一杯で、写真はピンぼけが1枚、やっと写っていた。



三湖台にて

展望レストハウスを過ぎ、平坦な広い道を歩いて行くと、展望のすばらしい三湖台に到着する。ここで昼食タイムとする。途中、山頂が見えていた富士山は、恥ずかしそうに山頂を雲の中に隠してしまった。しかし、広い青木ヶ原樹海が一望だ。竜ヶ岳や本栖湖も見える。さらに西湖と河口湖、その向こうには鬼ヶ岳や黒岳が聳えている。富士山の上空や青木ヶ原樹海の上空にはいろんな雲が広がり、自由に絵を描いているようだ。法政大学の附属高校の女子生徒が30人ほど来て、休憩を始めた。こちらの集合写真をお願いする。

昼食後は足和田山(五湖台)に向かう。平坦な道を行くこともできるが、途中で尾根通しの階段を登った。これで少しは山に登った感じがしたようだ。

足和田山には展望台がある。三湖台では見えなかった富士山の山頂がここでは雲の上に

見える。足下にはシモツケが咲き、ウラギンヒョウモンがひらひら舞っている。展望台には愛知県から来たおばさんたちが休憩していた。名古屋弁が懐かしかった。おばさんたちが見つけたイチゴを私たちも食べてみる。ますますの甘みがあり、おいしかった。帰って調べてみるとクマイチゴではないかと思われる。



三湖台から見た樹海

足和田山から勝山を目指して下る。山頂から少し歩いたところにあった分岐を右に行ったことが間違いだったようだ。急坂のジグザグ道を下り、平坦になったところで車道に出た。ここは八幡神社のすぐ近くだったようだ。ただ、

★木曾駒ヶ岳(8月6日～7日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)
会員外(健常者3名)

☆8月6日

この週末は好天に恵まれる予報となった。会員外の方二人が残念ながらキャンセルとなったが、硫黄岳に都合が付かず、こちらに参加した二人の子どもたちもいるので、賑やかな山行となる。

高速バスは1時間遅れたが、その後のバスとロープウェイは待ち時間もなく順調に進む。千畳敷に着くと、そこは別天地。ひんやりとした空気が心地よい。自己紹介をして歩きはじめる。

千畳敷カールを歩いていると次々に高山植

まだこの段階では間違っていることに気がつかなかった。が、下ったところが勝山でなかったため、次第に間違いが分かってきた。

それでも、勝山方面に歩いて、手前にあった大田和のバス停でバスを待つことにした。コースは間違ってしまったが、無事にバスに乗ることができた。富士山はすっかり姿を現して、ひととき高く聳えていた。 記：網干



大田和から見た富士山

コースタイム

紅葉台入口(10:30)…三湖台(11:25-12:15)
…足和田山(13:20-13:35)…大田和(15:00)

物が現れる。ハクサンボウフウ、クロトウヒレン、シナノオトギリ、エゾシオガマ、サクライウス(トリカブト)、タカネグンナイフウロ、ムカゴトラノオ、クルマユリ等々、カールは高山植物の天国だ。



千畳敷カールを登る

カールから八丁坂の登りにかかる。山仲間アルプ設立の年に来たときは、ここでヒメウスユ

キソウ（コマウスユキソウ）を見たが、今回は見つからない。もう絶滅してしまったのではないかと心配になる。

南アルプス方面には入道雲が立ち上がり、どんどん成長している。浄土乗越が近づく頃、ゴロゴロとカミナリの音が聞こえ始めた。南アルプス北部では雷雨になっているのかもしれない。

浄土乗越に計画よりかなり早く到着する。しかし、中央アルプスにも雲が広がり始めていた。そのまま宝剣山荘に入ることにする。結局、雨は降らずにすんだが、20時頃、外に出てみると、霧で何も見えなかった。



それでも、0時過ぎに外を見ると満天の星空。流れ星も見えた。子どもたちを起こし、夜空を仰ぐ。天の川やはくちょう座がよく見える。子どもたちも、一瞬の流れ星を見ることができたようだ。



☆8月7日

20代のKさんにせっかくここまで来たのだから宝剣岳に登ってもらおうと、日の出前に

山頂に登る。山頂で30分ほど日の出を待つ。八ヶ岳のキレット付近から太陽が顔を出した。普段山で見る太陽よりも大きく感じられた。

日の出前、明かりの見た駒ヶ根の町は明かりが消え、その向こうに南アルプスの山々が連なる。富士山は、農鳥岳と塩見岳の間から頭を出している。聖岳のさらに右には、光岳など深南部の山々もくっきり見えている。中央アルプス南部の熊沢岳、空木岳、南駒ヶ岳もよく見えている。御岳も朝日が当たり始めた。



宝剣山荘に戻ると、すぐに朝食が始まる。予定より少し早めで、とても助かる。席も最初から決まっているので、全員そろって席に着く必要もない。



しっかり朝食を摂り、小屋の前に集合する。とにかくすばらしい天気だ。まずは木曾駒ヶ岳に向かう。木曾駒ヶ岳の前に中岳を登って降りる。K君は、「えー、なんで降りるの?」と不満そう。ここを越えないと木曾駒ヶ岳に着かないのだから仕方ないね。



宝剣山荘から中岳を目指す

下を見ると、頂上山荘と色とりどりのテントが見える。そこまで下って、また木曾駒ヶ岳に向かって登り返す。標高差もそれほどないのだが、やはり標高2,900m以上あるので、酸素は薄い。何となく疲れを感じる。



木曾駒ヶ岳山頂にて

山頂に着くと、これまで見えなかった北部がよく見える。山に行くといつも探す富士山と槍ヶ岳。今まで見えなかった槍ヶ岳と穂高岳が遠くに見える。乗鞍岳も見えている。後立山はさすがにはっきりは見えなかった。ゆっくり30分ほど休み、集合写真を撮って下山にかかる。



御岳山遠望

来た道と同じ道を通るのだが、Fさんのサボ

ートをKさんに代わってもらったからなのか、来るときに気づかなかった花がいろいろ見えてくる。トウヤクリンドウやコマクサ、それにほんの少しだがヒメウスユキソウが咲いている。別のグループ（ツアー？）のリーダーが、コマウスユキソウと言われているが、本来はヒメウスユキソウだったと説明している。どちらでも良いけど、花の回りの綿毛がきれいだった。



宝剣岳と南アルプス南部

宝剣山荘に戻り、子どもたちに宝剣岳に登ってもらうことにする。ソウンスリングを腹に巻き、ロープでつないで一緒に登っていく。岩場を登り、山頂直下のトラバースは、私が先に行き、二人を確保する。Kさんが後ろで子どもたちの様子を見て、ホールドなどのアドバイスをします。K君のお母さんも一緒に登って来る。無事に、宝剣岳山頂に5人が到着する。山頂の一段高い岩に登っている人もいますが、そこには登らずに引き返す。下りはより慎重に歩いてもらう。無事に宝剣山荘に到着。子どもたちは自信になっただろうか？



宝剣岳山頂を目指す

乗越浄土にザックを置き、伊那前岳を往復す

ることにする。こちら側から宝剣岳を見るのは初めてだ。東面の岩場が急角度で山頂から落ちている。伊那前岳は思ったよりも遠く、帰りが登りになってしまうので、時間的なこともあり、途中で引き返す。ここでも、帰りにヒメウスユキソウを見つける。



乗越浄土から八丁坂を下る。登る人たちと下る人たちが大混雑だ。今日の木曾駒周辺は、とにかく大賑わい。ロープウェイに乗るために並ばなければならないのではないかと、少し心配になる。ただ、午前中はそれほどの混雑にならないだろうと予想している。



カールに降り立ち、カール底にある池を經由して千畳敷駅に戻る。ロープウェイ乗り場は、並んでいなかったけど、数分後には数十人が並んでいた。それでも、順調に降りて、高速バスのバス停で長時間並ばなくても良いように、時間を調整して、次のバスに乗車した。

伊那谷に住む人たちは、木曾駒ヶ岳を西駒ヶ岳と呼び、甲斐駒ヶ岳を東駒ヶ岳と呼ぶと聞いた。山の反対側の木曾と甲斐に名前を取られてしまって、伊那駒ヶ岳がないのが残念なのかもしれない。でも、伊那の人たちにとっては、どちらも自分たちの駒ヶ岳なのだろう。

記：網干



コースタイム

8/6 千畳敷(13:50)…宝剣山荘(15:00)泊
8/7 宝剣山荘(6:05)…木曾駒ヶ岳(6:50-7:20)…宝剣山荘(8:15-8:30)…宝剣岳(8:50-8:55)…宝剣山荘(9:15-9:25)伊那前岳方面往復)…乗越浄土(10:00)…千畳敷(11:00)

※雨のため岩登り技術講習会(阿寺)が、参加者不在のため飯縄山が、中止となりました。

キャンプ報告

★第9回ふれあいキャンプ(木崎湖キャンプ場)(8月20日~21日)

参加者 会員(障害者2、健常者3名)

会員外(健常者1名)

☆8月20日

2年続けて参加者不足のため中止となってしまうふれあいキャンプだが、今年は少人数ながらぎりぎり実施できる人数となった。これまでと違って、キャンプそのものだけでなく、往復の過程を青春18切符を使ってのんびりと、車窓の風景を楽しんだり、仲間同士の会話を楽しんだりして過ごすことで計画した。



今回は、北アルプス後立山連峰の東側にある木崎湖のキャンプ場で実施する。新宿駅から6時間以上の電車の旅を楽しんで着いたキャンプ場だ。木崎湖駅から車道を歩く。私は道を探しながら速めに歩いていたが、大きな荷物を持ってきたKさんとKMさんにはとても厳しい歩きだった。



コンビニで飲み物を仕入れ、道を教えてもらってキャンプ場に到着。受付を済ませ、バンガローに荷物を置いた後は、いすを運んで、早速夕食の準備にかかる。今回は、人数が少なかつたため、ガスコンロを使い、網で野菜や焼き鳥を焼いて食べる。食べた後は、Kさんのギター

とFさんのハーモニカの演奏で、歌を歌って盛り上がる。空は相変わらずどんより曇っていて星空を見ることはできなかった。



☆8月21日

明け方、起きて外に出ると、ほんの少しだが星が見えた。天気は回復に向かっているようだ。

6時頃、起きると、雲も多いものの青空が広がっている。湖の周囲もとても良い雰囲気だ。今朝はKMさんが準備してくれたそうめんだ。2回に分けてゆでる。昨日食べ忘れたキムチや野沢菜も食べてもらう。



うだるような暑さの都会とは違い、木々に覆われたキャンプ場は長袖を着ていないと寒く感じる。心地よいさわやかな空気の中で、関東に戻りたくないねという言葉が聞こえてくる。本当にここは別天地だ。

湖では子どもたちが泳いでいる。棧橋まで行き、みんなで写真を撮る。

これから向かうゆうぷる木崎湖は、朝7時から営業しているとのこと。荷物をまとめて出発する。キャンプ場を出て、舗装道路を歩くと、

これまでの涼しさが嘘のように暑い。ゆうぶる木崎湖で温泉に入り、汗を流してさっぱりする。露天風呂に行くと外の空気はひんやりしていて気持ちが良い。



朝の木崎湖

休憩室でゆっくりしていたが、電車の時間を10時20分発と勘違いして、慌てて出発することになる。急いで歩いたことで10分前には駅に着いたが、どうも電車が来る様子がない。よく計画書を見てみたら、電車は10時44分発だった。ホームは暑くていられないので、無人の改札付近の日陰に入って過ごす。田舎の駅はのんびりしていて良い。線路にも雑草がのびのびと生きている。



信濃木崎駅に入ってきた電車

大糸線の電車に乗って車窓を楽しみながら松本駅に向かう。松本駅で降りて、松本城見物

に行く。途中で、松本サマーフェスをやっていたので、そこで昼食タイムとする。かなり暑いのではないかと思ったが、日陰に入るとそれほど暑くない。ステージで演奏しているグループを見ながら、発芽そばを食べる。

松本城は国宝だ。烏城といわれる黒いお城。北アルプスとのコラボで写真を撮りたかったが、北アルプスの稜線は雲の中だった。天守閣は80分待ちと看板があったので、入のを止め、周囲を1周してから松本駅に戻る。



国宝松本城にて

電車の中で、八方尾根を登り、キレット小屋に泊まって、今日爺ヶ岳を越えて柏原新道を下ってきたという若者二人と話しをする。一期一会の交流や仲間同士の交流を楽しみながら、長い各駅停車の旅を楽しみながら、帰路についた。

記：網干

コースタイム

8/20 信濃木崎駅(15:15)…木崎湖キャンプ場(16:00)

8/21 木崎湖キャンプ場(8:30)…ゆうぶる木崎湖(8:50-10:00)…信濃木崎駅(10:10 着、10:44 発)－松本駅(11:46 着、12:00 発)…松本城往復…松本駅(14:00)

各種連絡事項

▲登山の山の変更及び一部中止のお知らせ

9月24日～25日に計画していた共に楽しむ登山の八幡平を事務局都合により中止と

しましたが、実施できることになりましたので、計画通り実施します。

9月3日～4日に計画していた登山知識及び技術向上コースの苗場山は、参加者不足のため中止とします。

また、1月29日に計画していた戦場ヶ原

(スノーハイク)ですが、事務局都合により1月22日に変更とさせていただきます。

相次ぐ変更で大変申し訳ありませんが、ご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。

会員情報

6月以降、入会、退会ともありませんでした。

編集後記

・理事長のつぶやき

10年間継続してきた「自然と親しむ子ども山登り教室」の総決算としての富士登山が無事に終了しました。悔しい思いや苦しい思い、そして達成感に喜んだ子どもたちもいます。これから長い人生を歩んでいく子どもたちには、楽しいことだけではなく、試練もたくさん待っていると思います。苦しみも大切な経験です。今回の富士登山をバネに、自分の道を歩んでいってほしいと思います。

最初の頃の子ども登山教室で、他の子どもより歩くのが遅い子どもがいました。「自分はだめなのかな？」と思っていた子に、「来年は成長してみんなに付いていこうね」と言った方がいました。その子のことを思う優しい方でした。

その時、私は、「速く歩けることが良いわけではないよ。今のままでいいんだよ」と言いました。その子が寄せてくれた感想には、「そのまま良いと言われてとてもうれしかった。もっともっと山に行きたくなりました」と書かれていました。大人が成長させようと思わなくても、子どもは間違いなく成長しています。大切なのは、大人がそれをしっかりと見つめて、「お、こういうところが成長したね」と声をかけてあげることだと思います。できれば子どもが努力していたら、その努力している姿勢を褒めてあげることが大切なのだと思います。それができるためには、大人も勉強して成長しないといけませんね。みんなでがんばるべえ。

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

